

授業概要

人間の情報処理は低次から高次なものとして、感覚、知覚、認知と分類される。感覚は感覚器官から大脳の感覚中枢に至る過程であり、刺激があったか、なかったかという最も単純な情報処理をさす。知覚は、対象は何であるか、状況はどうであるかなどの理解に関連したより高次の情報処理をさす。本講義では、感覚と知覚（特に視覚）のメカニズムと機能的特徴について講義する。さらに、人間の感覚、知覚に関する心理物理学、実験心理学によるアプローチや理論を解説するとともに、知覚心理学の応用について講義する。

授業計画

第 1 回	知覚心理学とは何か
第 2 回	視覚の生理学的基礎
第 3 回	視覚の基本的特性：図地分化、恒常性、補完など
第 4 回	幾何学的錯視(1)
第 5 回	幾何学的錯視(2)
第 6 回	色覚
第 7 回	視覚におけるボトムアップ処理とトップダウン処理(1)
第 8 回	視覚におけるボトムアップ処理とトップダウン処理(2)
第 9 回	反応時間と視覚
第 10 回	感情が知覚に与える影響(1)
第 11 回	感情が知覚に与える影響(2)
第 12 回	注意と知覚
第 13 回	知覚の応用的研究
第 14 回	知覚と生理的反応(1)：自律神経系
第 15 回	知覚と生理的反応(2)：中枢神経系
第 16 回	筆記試験

到達目標

1. 人間の感覚、知覚のメカニズムに関する基本的な知識を習得する。
2. 研究方法、具体的にはどのような実験、分析方法によって、人間の知覚のどのような側面を明らかにしようとしているのかに関する理解を深める。

履修上の注意

具体的な実験方法、分析方法はなるべく授業で課題として体験してもらうようにしたい。また、授業の講義から興味を持ったテーマや研究は自ら積極的に調べたりして知識や理解を深めてほしい。そのための質問や意見はいつでも歓迎する。

予習・復習

参考書として挙げた書籍を読んで、授業と合わせて予習、復習を進めてもらいたい。

評価方法

授業における課題提出（40%）、学期末試験（60%）により総合的に評価する。

テキスト

毎回、配布資料と PowerPoint で講義を進める。参考書としては、以下。

- ・ 参考書名：知覚心理学
- ・ 著者名：北岡明佳（編）
- ・ 出版社名：朝倉書店
- ・ 出版年（ISBN）：2011（978-4-623-05769-6）